

令和元年度

29th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入賞作品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、
毎日新聞仙台支局
協賛 宮城県写真商業組合

入 賞 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	夜明けのドラマ	佐藤浩章	福島県南相馬市
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	餌だよ、ポーン。	小野寺俊一	千葉県千葉市
金賞 (栗原市長賞)	朝日に舞う	大金由夫	大崎市古川
金賞 (登米市長賞)	舞い降りた妖精たち	高田毅	福島県南相馬市
銀賞 (栗原市観光物産協会会長賞)	畴への帰り道	三浦明彦	登米市中田町
銀賞 (登米市観光物産協会会長賞)	ひと雨来るかなあ	菊地誠一	石巻市貞山
銀賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	オリオンに守られて	岩崎孝	仙台市太白区
銅賞 (河北新報社賞)	一日を終えて	遠藤一治	仙台市泉区
銅賞 (読売新聞東北総局長賞)	大物とったぞ	鈴木由香	福島県南相馬市
銅賞 (朝日新聞仙台総局長賞)	朝霧の刻	今野千賀子	大崎市古川
銅賞 (毎日新聞仙台支局長賞)	トワイライトジェット	永野友香	登米市迫町
入選	碧の宝石	佐藤直樹	登米市迫町
入選	朝の煌きの中で	鈴木和徳	福島県南相馬市
入選	始 動	北原良章	加美郡加美町
入選	朝焼けの雁行	佐々木幹男	登米市迫町
入選	御来光	伊藤利喜雄	岩手県一関市
入選	なかよし	中野好太郎	仙台市宮城野区
入選	いってらしゃい	鈴木岳美	栗原市築館
入選	たくさん食べてね	工藤るみ	仙台市太白区
入選	寒風について	高橋貞勝	岩手県奥州市

総 評

今年は通常の審査となりました。そのためか応募者数が昨年よりも減ってしまいました。しかし、全体の作品のレベルは年々上がってきてると言えます。上位入賞作品から入選までのレベル差があまりないと言えます。機材の進歩も急激に進んでいることもありますが、シャープに捉えることは当たり前になってきたようです。

入選作品の撮影地を見ると、スナップも含めて内沼が増えているようです。王道も大事ですが目新しいものもコンテストでは評価されます。私有地や田畑などの立入制限などのマナーを厳守して、新たな作品作りに挑戦してみてください。

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストは、伊豆沼・内沼の自然環境を守りつつ、その素晴らしさを皆さんの写真で広めていける素敵な取り組みです。

フォトコンテスト審査員 井村 淳 (いむら じゅん)



1971年生まれ。横浜市在住。
日本写真芸術専門学校卒業。
竹内敏信氏の助手を経てフリーになる。
サバンナの動物を中心に世界の野生動物や日本の自然など「野生」を求めて活動。
(社)日本写真家協会会員。チャーター保護基金
ジャパン名誉会員。キヤノンEOS学園講師など。
著書『大地の鼓動』『あざらしたまご』他。

ホームページ
(J's WORLD Nature Photographer
Jun Imura's website)

最優秀賞（宮城県知事賞）「夜明けのドラマ」

佐藤 浩章



【評】 空一面を埋め尽くすマガンの群れ。だれもが憧れる場面だと思います。朝日が出る直前で飛んでしまったのかもしれませんが、空のグラデーションが何とも美しく、それを上手く描写されているので、見た瞬間に圧倒されました。こんなにもカラフルな空を背景に、ほとんど隙間無く広がった大群をブレることなくシャープに捉えられているのも素晴らしいです。目の前のシャッターチャンスを逃さずに写す。それは、簡単そうで難しいことです。

金賞（栗原市長賞）「朝日に舞う」

大金 由夫



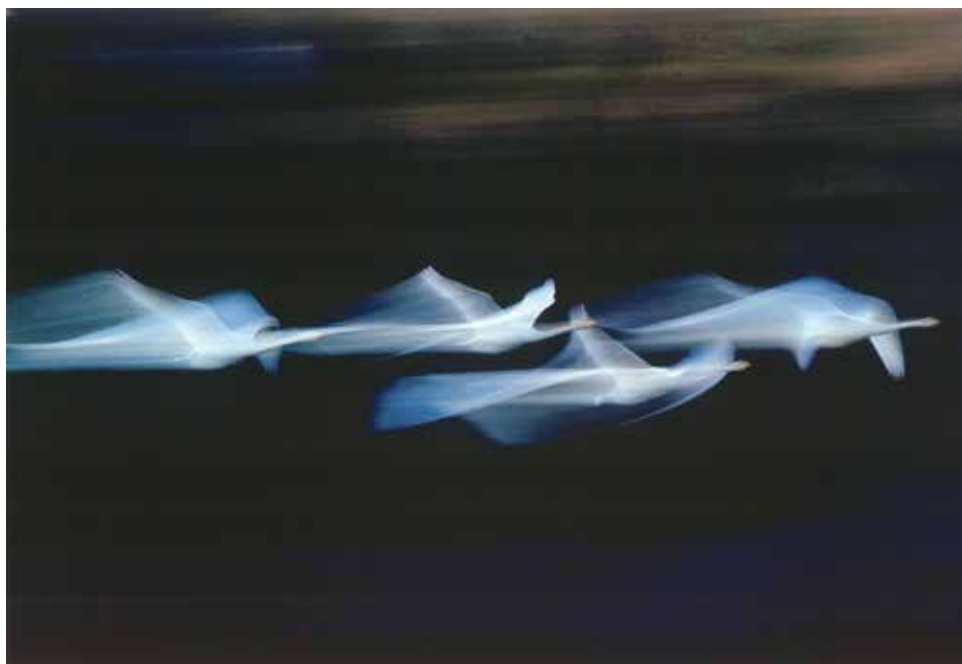
【評】 ど真ん中から昇ってきた太陽の大迫力の構図です。全体に霧があり、強すぎない光で、黒つぶれもすることなく画面全体が綺麗な階調です。マガンも空全体を埋めるようなタイミングと、手前の水面にキリミ状態で降りてくるものも捉えられて、色々な要素が入っています。水面に映った太陽の部分だけ見ても美しいです。1日の始まりのエネルギーを感じる景色です。



【評】ハクチョウやカモが餌を求めて集まっているところで、少女が餌を遠くに投げようと勢いをつけたのでしょう。画面では小さいですが、よく見ると両足は宙に浮き、左足は跳ね上がった躍動感たっぷりの瞬間が捕らえられています。太陽の周囲はゴーストなどがたくさん出ていますが、この場合はそれも面白い効果としてあえて取り入れているように見えます。空の空間も雲の広がりがある面白い形です。

金賞（登米市長賞）「舞い降りた妖精たち」

高田 毅



【評】真っ白なハクチョウが暗い背景の中を飛ぶシーンで流し撮りをされたのでしょう。流し撮りの前半はハクチョウの動きに合わせて、途中から追い越すような撮り方ですかね。と理屈を言っても、なかなか狙って撮れるものではないですね。きっと、薄いベールを羽織った妖精が飛んでいたのですね。撮影者の心でそう見えたからこそ撮れた一枚なのだと思います。

銀賞

(栗原市観光物産協会会長賞)

「塙への帰り道」 三浦 明彦

【評】 二羽のマガンが夕日を浴びているのでしょうか、綺麗なライティングで暗い背景から浮かび上がり幻想的です。また、二羽ともにピントも合っていて立体感があります。群れではなく二羽という切り取りが深みのある情景を演出してくれます。空間の取り方や背景の山の形の良いところを取り入れたのも高評価です。



銀賞

(登米市観光物産協会会長賞)

「ひと雨来るかなあ」 菊地 誠一

【評】 舟からでしょうか、大きなハスを下から見上げるアングルなんて普段見ない光景でとても面白いです。また、その背景の黒い雲をタイトルにしているのも良いです。ただ、すこし惜しいのは、もうすこし上まで入れるか、この構図であれば、左右両脇のハスの花にもピントが合う様に被写界深度を深く絞れたらなお良かったです。

銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)

「オリオンに守られて」 岩崎 孝

【評】 静かな伊豆沼の上空に無数の星を捉えた壮大なスケールの写真です。おそらく、撮影後にモノトーンにし、主要部だけを色で見せているのも面白いです。オリオン座の配置位置も画面上部になる季節と時間帯選びと構図の設定がとても良いです。また、前景のカヤのシルエットも並びの綺麗な場所で良いです。



銅賞（河北新報社賞）
「一日を終えて」

遠藤 一治



【評】 一日の終わりに五十羽を超えるシラサギがねぐらに集まってくるのですね。暗くなりかけでシャッター速度もギリギリのブレの範囲で収めています。また、明るさはハイライトが白トビしないギリギリのところで見せて黒の締まりもあり、コントラストがとても良いです。

銅賞（読売新聞東北総局長賞）
「大物とったぞ」

鈴木 由香



【評】 イタチの仲間でしょうか？大きなナマズのような魚を引きずっているようです。まるで見せに来ているかのような正面からの切り取りが面白いです。光も斜め正面の綺麗な日差しです。とても惜しいのですが、よく見るとほんのすこし後ピンようです。

銅賞（朝日新聞仙台総局長賞）
「朝霧の刻」

今野千賀子



【評】 朝日で霧が赤く染まったなかを飛び立つマガンのシルエットを良いバランスで捉えドラマチックです。太陽付近の六〜七羽がとても良いです。また、前景に休んでいるハクチョウを取り入れているのも平和を感じる光景です。更に手前のカヤを入れ奥行き感が強調されました。

銅賞（毎日新聞仙台支局長賞）
「トワイライトジェット」

永野 友香



【評】 パツと見、この紫がかった色が目を引きました。フィルターかホワイトバランスをコントロールされたのでしょうか。背景の写り方を見るとそれほど望遠レンズではないように見えます。それでこの大きさで写すには目の前で羽ばたいたのでしょう。とても迫力があります。

入選「碧の宝石」

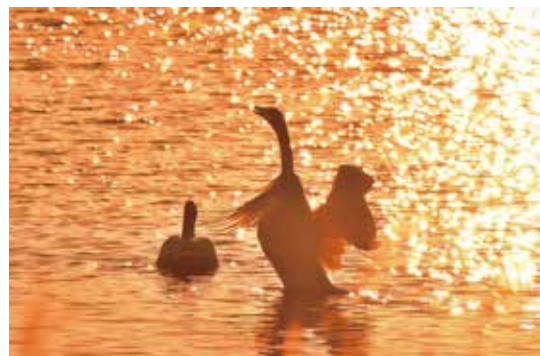
佐藤 直樹



【評】 まさに宝石のような美しいカワセミの姿を、見事にシャープに描写されています。背景もシンプルなところに合わせ、その姿がより綺麗に見せられています。とても惜しいのが構図です。鳥の上の空間が広いので画面下がやや窮屈に見えてしまいます。

入選「朝の煌きの中で」

鈴木 和徳



【評】 朝日が昇って間もなくの光でしょう。水面に反射する煌めきを背景に入れ、羽ばたくハクチョウの美しいシルエットを捉えています。逆光で暗めに狙いがちなところですが、明るめの露出設定なのが朝の雰囲気を感じさせています。

入選 「始 動」

北原 良章



【評】 寒く冷え込んだのですかね、ちょうど良い霧が上がり、昇ってきたばかりの太陽が逆光で照らした幻想的な場面ですね。そのタイミングでマガンの群れが飛び立った絶好のシーンです。背景に入れた木立の形もバランスが良く風景としても美しいです。

入選 「朝焼けの雁行」

佐々木幹男



【評】 赤く焼けた空を背景に一齐に飛び立ったマガンの飛翔を超望遠レンズでしょうか、圧縮効果を使い一層の高密度で切り取った迫力の作品です。望遠にした分、引き寄せられた山陰の黒い部分の比率がすこし多くなってしまったのが惜しいです。

入選 「御 来 光」

伊藤利喜雄



【評】 ハクチョウ六羽がまるで日の出を拝んでいるようなイメージですね。ほど良い霧が上がりが神々しく見えます。ハクチョウの並びや、それぞれの顔の向きも良いタイミングだと思います。他に鳥がいなくて六羽だけなのでシンプルで良いです。

入選 「なかよし」

中野好太郎



【評】 オナガガモのオスメスでしょうか、沢山いる中で二羽が見つめ合っていて他は皆そっぽを向いているような瞬間が面白いです。また、カメラの高さが鳥の目線なのでより感情移入しやすくなりました。フレーミングもベストだったと思います。

入選 「いってらしゃい」

鈴木 岳美



【評】 太陽を大きく狙うには超望遠レンズになります。画面にマガンを絡ませピントを合わせるのは非常に難しくなりますが、雲から顔を出した太陽のタイミングも良く、ピントも来ています。左の二羽の羽が重なっていないかなお良かったですね。

入選 「たくさん食べてね」

工藤 るみ



【評】 女の子がカモに餌をあげているのですね。一粒をそっとカモに近づけてすこし怖がっているように見えますが、もうすこし女の子の表情が見えるとより良かったです。また、女の子が水玉の赤い服を着ているのは写真的にとても映えます。

入選 「寒風について」

高橋 貞勝



【評】 蓮田でレンコンの収穫をしているところでしょうか。あぜの奥からホースが繋がっていて奥行きを強調しています。またその奥でマガンの群れが飛翔しているのがこのエリアならではの光景ですね。被写界深度やシャッター速度の設定も的確です。